

来月農家レストラン開店の松橋農場 スタッフ全員が農場研修「生産者の思い 自分の言葉で」

2014年10月14日

11月に帯広市街地に農家レストランを開業する松橋農場（更別村、松橋泰尋代表）は、開店準備のためのスタッフ教育で全員が農業について語れる店を目指し、管内各地の農場で研修を行っている。収穫期を迎えた十勝の畑や牧場などで、シェフや10～20代の若いホールスタッフが農作業に汗を流し、農畜産への理解を深めている。



生産現場の思いを学ぼうと牛舎で寝床作りなどを体験するスタッフ（11日、帯広市の十勝加藤牧場で）

このレストランは「農家バル FOOD BABY（フードベイビー）」（帯広市西2南9）で、11月13日開店予定。松橋農場が別法人を設立して運営する。

6次産業化や都市圏のシェフとの交流、イベントの場など幅広く活用する目的があり、スタッフも農業への理解が必要なことから、飲食店としては異例の農場研修を

進めている。9月初旬に始まり、研修先と調整がつけば、開店までの間で随時実施している。

同店に食材を提供する管内の農場や牧場などで、これまで農作物の収穫や養豚場の餌作りなどを体験。アルバイトも含めたスタッフが経験を積む。

11日は6回目の研修を行い、レストランで食材を活用する予定の十勝加藤牧場（帯広市、加藤賢一代表）を訪問した。シェフやホールスタッフ7人が、牛舎での寝床作りや餌寄せ作業に精を出した。

帯広市在住の南志織さん（21）は「生産者が心を込めて作っていることをお客さんに伝えたい」、シェフで新得町在住の三浦史寛さん（42）は、「生産者の気持ちを自分の言葉で伝えることができる。それが産業の発展につながるとうれしい」と意欲を見せた。

松橋代表は「スタッフ全員が、ここで感じた食材のストーリーを自分の言葉で語ってほしい。地元の物を自らが応援し伝えるのが地産地消。それに連帯感を持って取り組みたい」と話していた。

農家経営のレストラン 帯広市中心部にあすオープン

2014年11月12日



13日に開店する「農家バルFOOD BABY」の店内

更別村の農業法人が運営する農家レストラン「農家バルFOOD BABY（フードベイビー）」が13日、帯広市中心部（西2南9、メンセレビル2階）にオープンする。

更別村の農業法人・松橋農場（松橋泰尋代表）が別法人「WORLD WIDE LOVE（ワールドワイドラブ）」

を設立して経営する。

農場で育てた和牛肉の他、管内30以上の農家の農畜産物を調理し、タパス（小皿料理）など約100種類のメニューとして提供する。農場施設の古い木材や、トラクターの部品などを使って内装もこだわった。店員も農場で研修して食材の背景を学び、農家風の服装で接客するなど、農業を身近に感じられる場所になっている。

市街地に出店することで、十勝の食材の6次産業化や都市圏の料理店シェフとの交流、イベントの場など幅広い用途に活用する。取り扱う十勝の農畜産物も募集している。

松橋代表（31）は「農業を知る、食べる、買うことができる場にしていきたい。食材を提供していただいている生産者に恩返しができる」と話している。

営業時間は午後6時から翌午前0時（金・土曜日は翌午前2時）。日曜定休。問い合わせは同店（0155・94・3976）へ。